


3) コアジサシ

コアジサシの生態情報等を表 3.2-6に、確認位置を図 3.2-3に示す。

コアジサシは平成 25 年 5 月 10 日に海上を飛翔する 4 羽、6 月 25 日に海上で探餌する 5 羽、海上を飛翔する 4 羽、9 月 17 日に海上で探餌する 3 羽をそれぞれ確認した。

なお、繁殖行動は確認されなかった。

表 3.2-6 特筆すべき種の生態および確認状況（コアジサシ）

コアジサシ	カモメ科	種の保存法	国際	環境省 RL	VU	三重県 RDB	EN	近畿 RDB	R2 繁殖
生態	日本には夏鳥として渡来し、本州以南で局地的に繁殖する。三重県では海岸を中心に確認されている。湖沼、河川、河口等の大きい水系のある河原、砂州、砂浜でみられる。水面上空を停空飛翔を交えて飛翔し、ダイビングして小魚を捕らえる。繁殖期は5～7月で、一夫一妻で繁殖する。捕食者が近づきにくい中州の砂地に産卵する。1 巣卵数は1～4 個で、3 個が多い。								
確認状況	平成 25 年 5 月 10 日に延べ 4 羽、6 月 25 日に延べ 9 羽、9 月 17 日に 3 羽をそれぞれ確認した。								
									
コアジサシ 平成 25 年 6 月 25 日撮影									

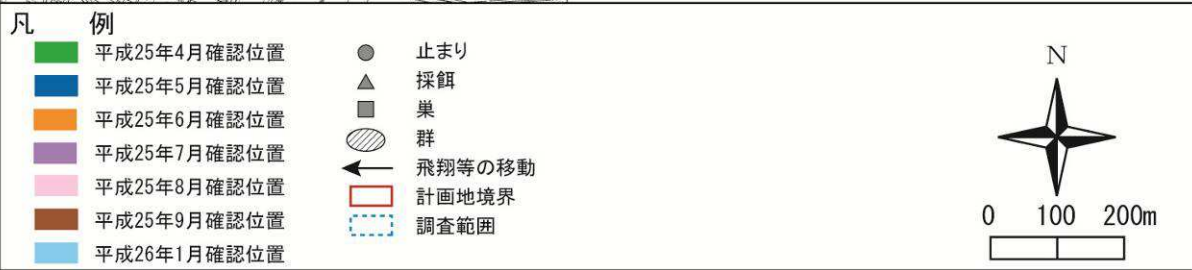
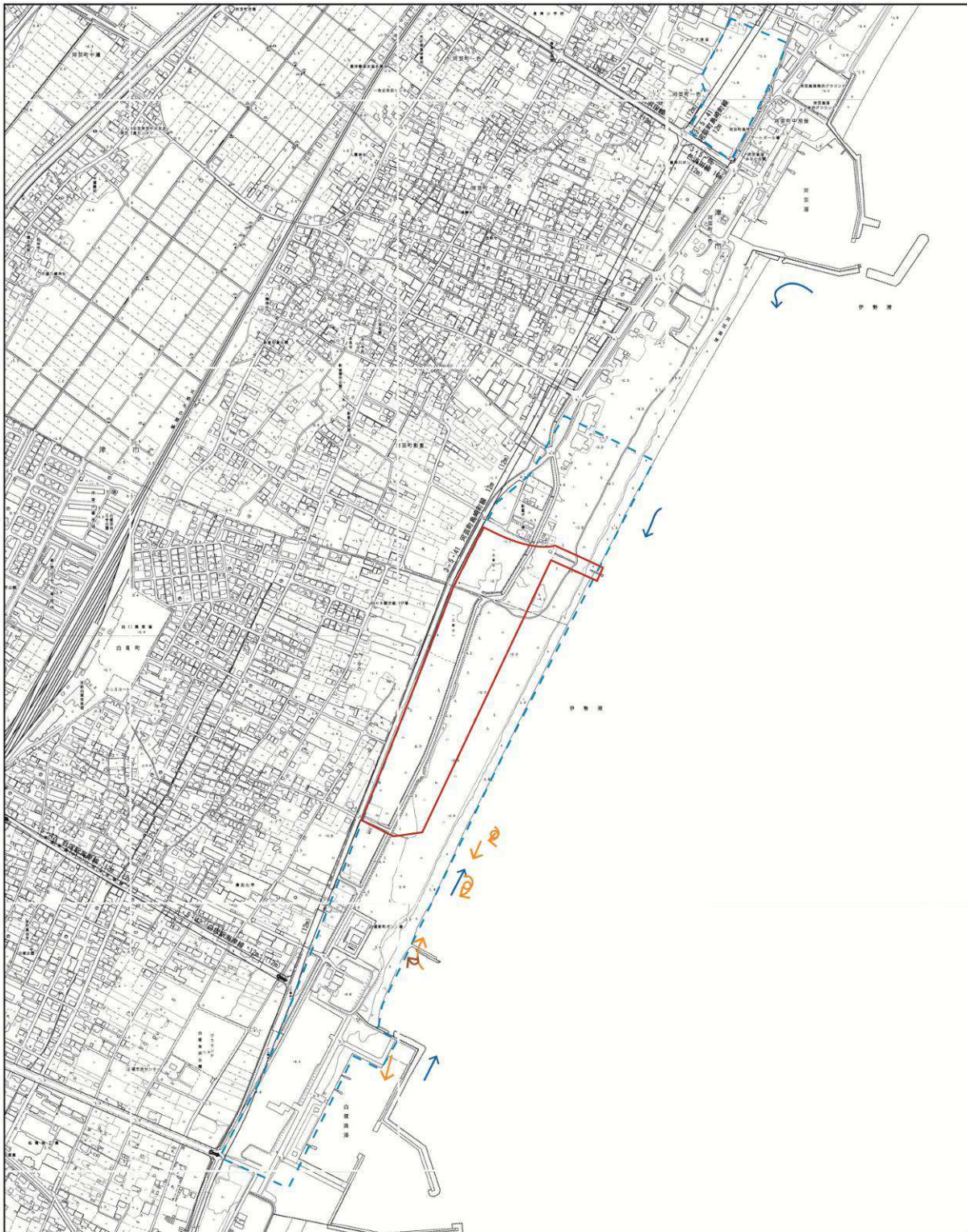


図 3.2-3 コアジサシの確認位置

4) ミユビシギ

ミユビシギの生態情報等を表 3.2-7 に、確認位置を図 3.2-4 に示す。

ミユビシギは、平成 25 年 4 月 25 日に海上で飛翔・採餌する 2 羽、5 月 10 日に砂浜で採餌する延べ 40 羽、8 月 12 日に海岸の水際で採餌する 6 羽、9 月 17 日に砂浜で採餌する 7 羽、平成 26 年 1 月 10 日に砂浜で採餌する 2 羽をそれぞれ確認した。

なお、繁殖行動は確認されなかった。

表 3.2-7 特筆すべき種の生態および確認状況（ミユビシギ）

ミユビシギ	シギ科	種の保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	NT	近畿 RDB	R2 通過
生態	日本には旅鳥として全土に現れ、8~10 月と 5 月に見られる。本州以南では少数が越冬する。三重県内では、川越町、四日市市、津市、松坂市等で記録されている。海岸の波打ち際、広い砂浜、干潟、干拓地の水たまり等で見られる。波打ち際で採食する。波の動きに合わせてまるでチドリ類のように走り回り、慌てて隠れようとするハマトビムシ等をついばむ。								
確認状況	平成 25 年 4 月 25 日に 2 羽、5 月 10 日に延べ 40 羽、8 月 12 日に 6 羽、9 月 17 日に 7 羽、平成 26 年 1 月 10 日に砂浜で採餌する 2 羽を確認した。								
									
<p>ミユビシギ 平成 25 年 8 月 12 日撮影</p>									

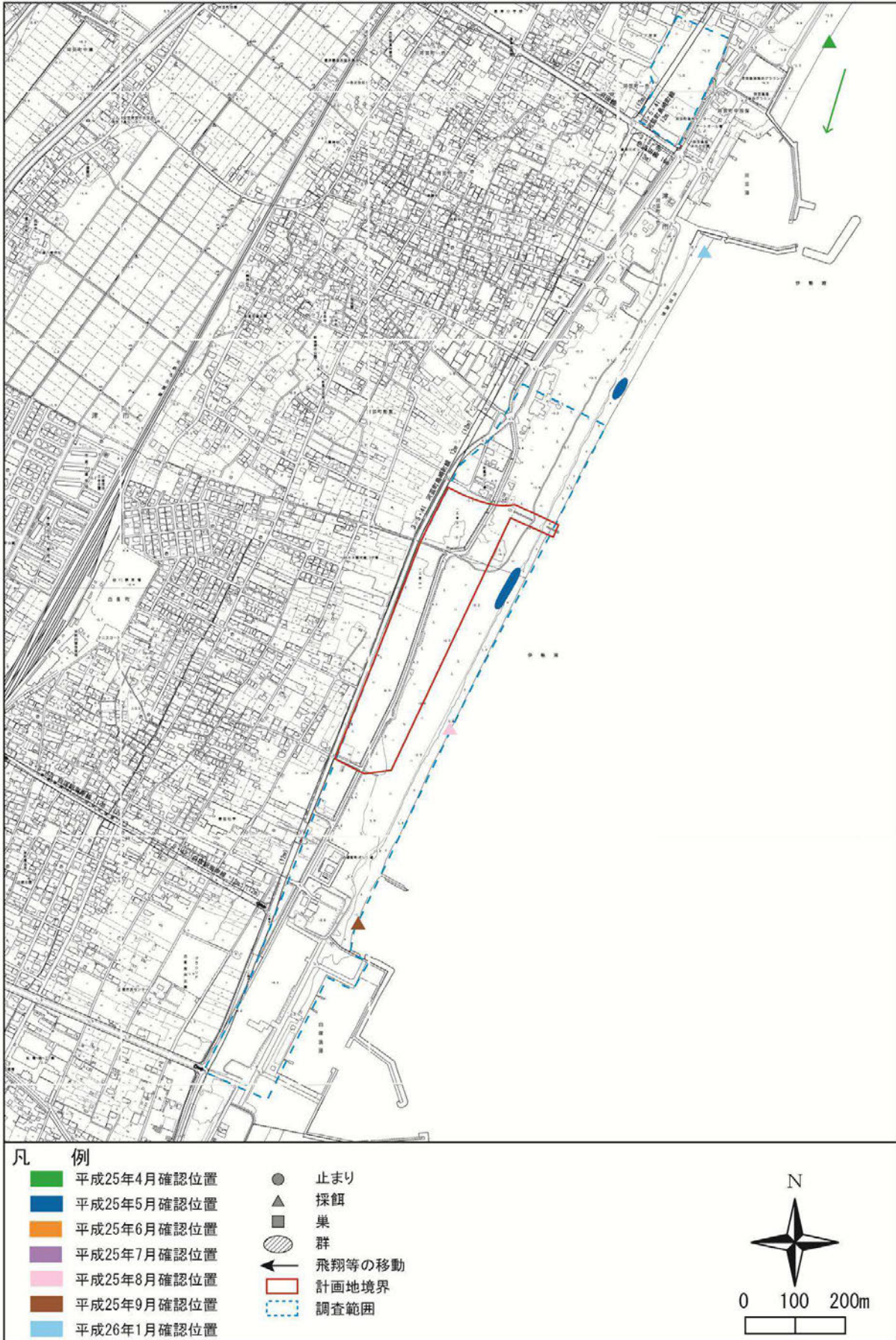


図 3.2-4 ミユビシギの確認位置

5) キアシシギ

キアシシギの生態情報等を表 3.2-8に、確認位置を図 3.2-5に示す。

キアシシギは、平成 25 年 5 月 10 日に人工物上で休息する 1 羽、8 月 12 日に海岸の水際で採餌する 2 羽をそれぞれ確認した。

なお、繁殖行動は確認されなかった。

表 3.2-8 特筆すべき種の生態および確認状況（キアシシギ）

キアシシギ	シギ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として春と秋に全土に現れるが、九州および南西諸島では少数が越冬する。越冬地や渡り期には、海岸や河川の砂浜、干潟や砂礫地に現れる。浅く水につかる泥地や砂礫地の汀線で水中から甲虫や双翅類等の昆虫をついばむ。非繁殖期には小群で見られる。								
確認 状況	平成 25 年 5 月 10 日に 1 羽、8 月 12 日に延べ 2 羽を確認した。								
									
キアシシギ									
「平成 24 年度国補中勢志登低率 第 2602-2 分 2001 号 中勢沿岸流域下水道（志登茂川処理区）志登茂川浄化センター環境事後調査業務委託報告書」より転載。									

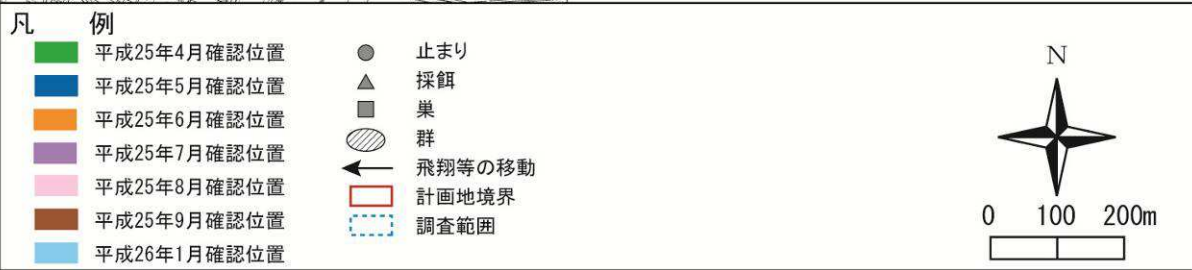
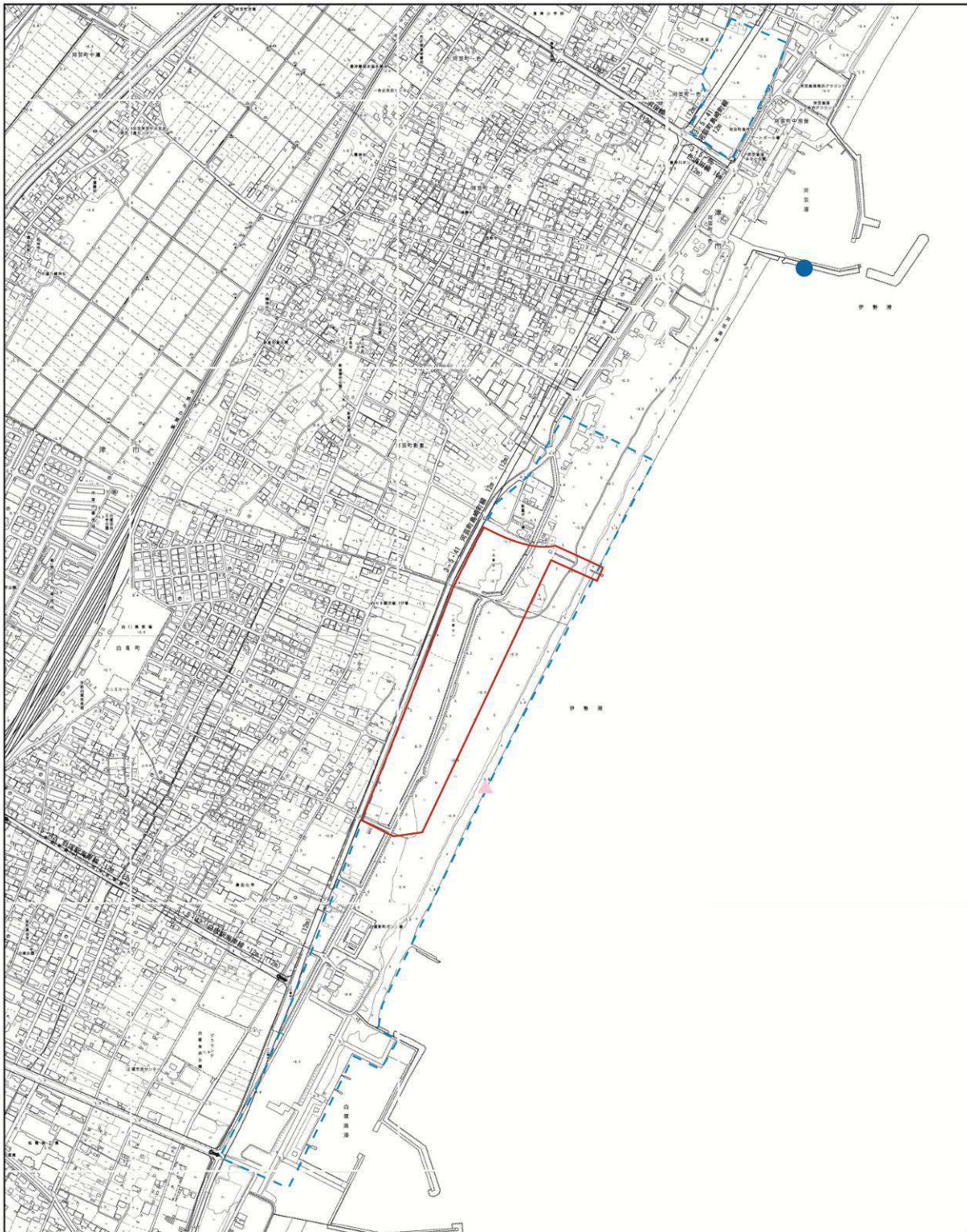


図 3.2-5 キアシシギの確認位置図

6) イソシギ

イソシギの生態情報等を表 3.2-9 に、確認位置を図 3.2-6 に示す。

イソシギは、平成 25 年 5 月 10 日に防波堤上で休息する 1 羽、7 月 25 日にテトラポッド上で休息する 1 羽、平成 26 年 1 月 10 日に海上を飛翔する 1 羽および砂浜で採餌する 1 羽をそれぞれ確認した。

なお、繁殖行動は確認されなかった。

表 3.2-9 特筆すべき種の生態および確認状況（イソシギ）

イソシギ	シギ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R2 繁殖
生態	国内では北海道、本州、四国、九州で繁殖する。北海道、本州北部の個体群は、冬季は南へ移動する。河原や湖岸などの裸地・草地の地上で営巣する。昆虫のほか、軟体動物、甲殻類、クモなども採食する。								
確認 状況	平成 25 年 5 月 10 日に 1 羽、7 月 25 日に 1 羽、平成 26 年 1 月 10 日に海上を飛翔する 1 羽および砂浜で採餌する 1 羽を確認した。								

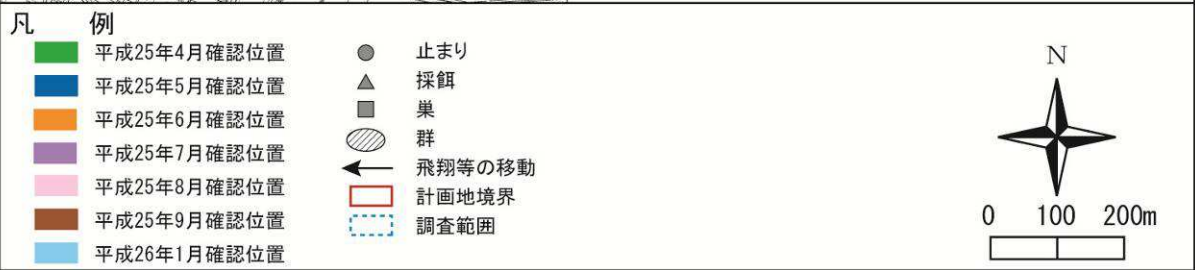
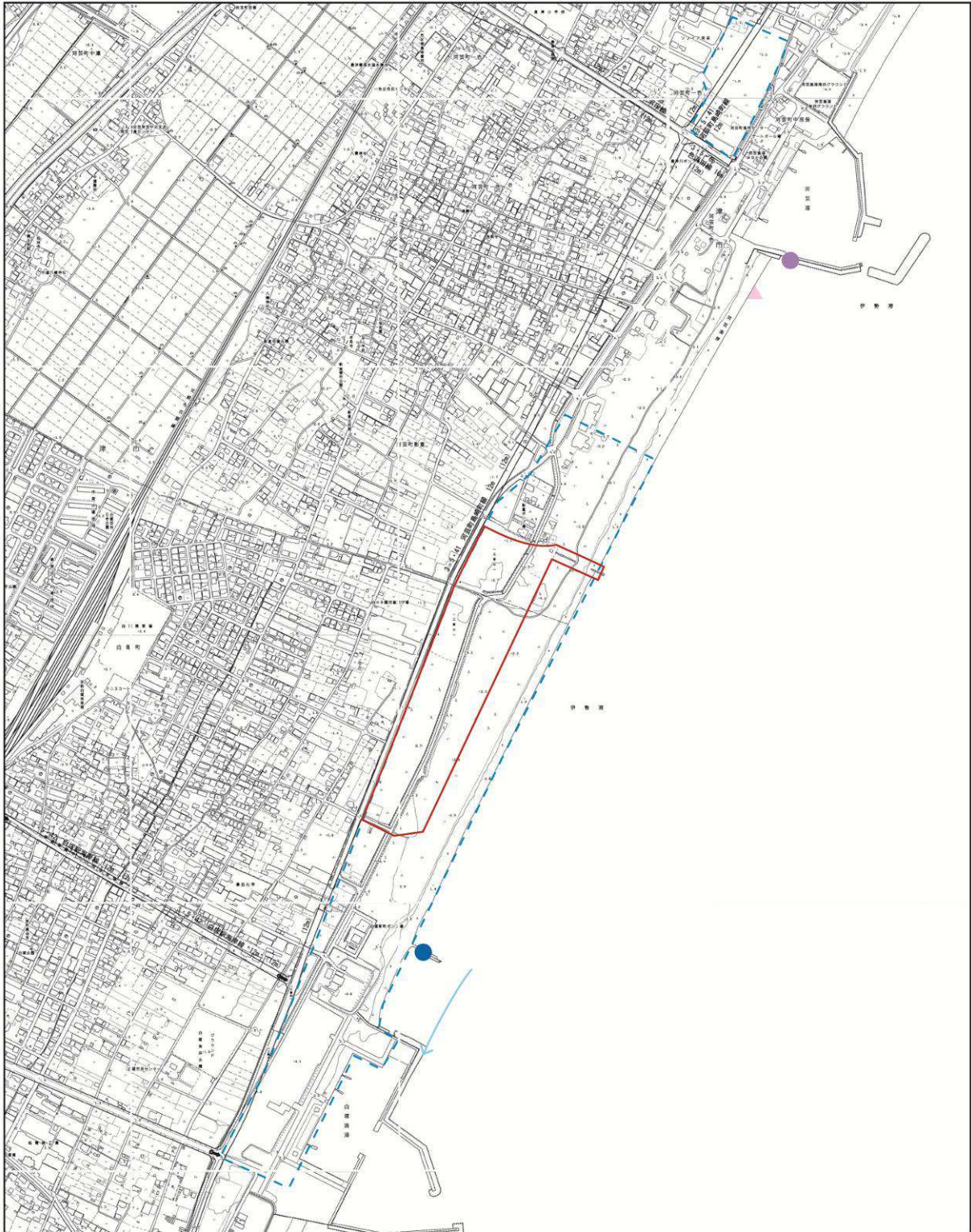


図 3.2-6 イソシギの確認位置図


7) キョウジョシギ

キョウジョシギの生態情報等を表 3.2-10 に、確認位置を図 3.2-7 に示す。

キョウジョシギは、平成 25 年 5 月 10 日に砂浜で採餌する 1 羽を確認した。

なお、繁殖行動は確認されなかった。

表 3.2-10 特筆すべき種の生態および確認状況（キョウジョシギ）

キョウジョシギ	シギ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として全土に現れ、秋は 8～10 月、春は 4～6 月に見られる。渡り期や越冬地では海岸で見られ、まれに内陸の河川に現れる。海岸では砂浜や河口の砂泥地にも現れるが、岩石地や砂利地の海岸を最も好む。								
確認 状況	平成 25 年 5 月 10 日に 1 羽を確認した。								
									
キョウジョシギ									
「平成 24 年度国補中勢志登低率 第 2602-2 分 2001 号 中勢沿岸流域下水道（志登茂川処理区）志登茂川浄化センター環境事後調査業務委託報告書」より転載。									

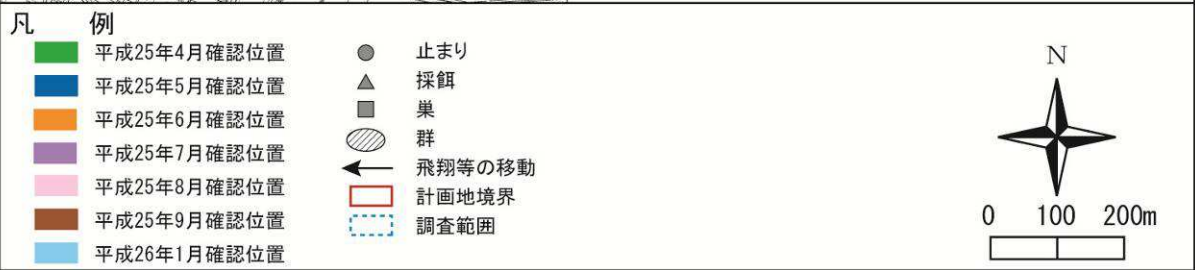
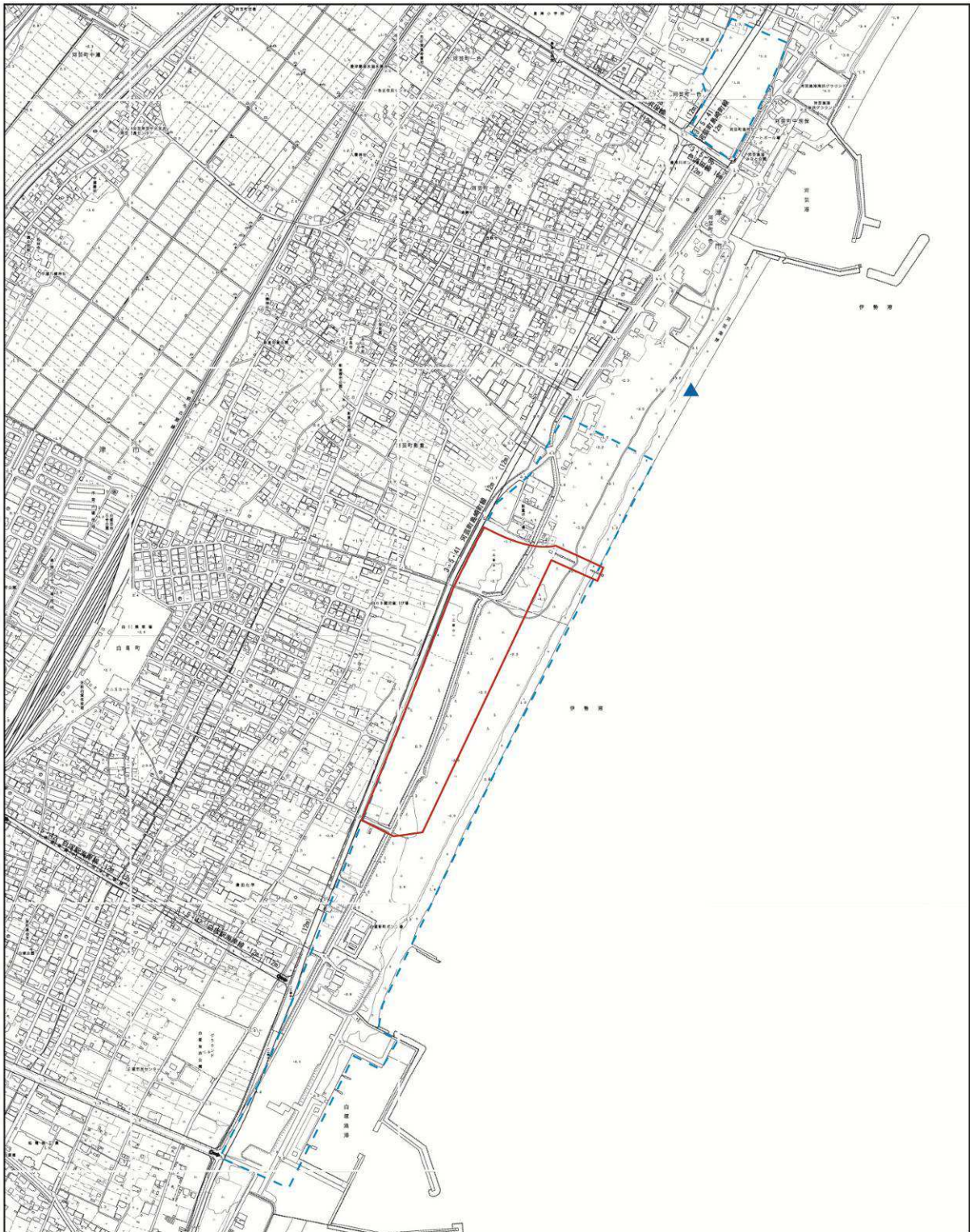


図 3.2-7 キョウジョシギの確認位置図

8) トウネン

トウネンの生態情報等を表 3.2-11 に、確認位置を図 3.2-8 に示す。
 トウネンは、平成 25 年 9 月 17 日に砂浜で採餌する 1 羽を確認した。
 なお、繁殖行動は確認されなかった。

表 3.2-11 特筆すべき種の生態および確認状況（トウネン）

トウネン シギ科		種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として各地に多数が現れる小型のシギである。フィルム状に水につかる砂泥地の表面で採餌する。気ぜわしく歩き回り、細かくくちばしを使ってついばむ。ミミズ、ゴカイ類、甲殻類、昆虫、小貝、草の種子などを泥の表面からつまみとったり、軽く突き刺したり、いづらか探りを入れたりして捕らえる。								
確認 状況	平成 25 年 9 月 17 日に 1 羽を確認した。								
									
トウネン 平成 25 年 9 月 17 日撮影									

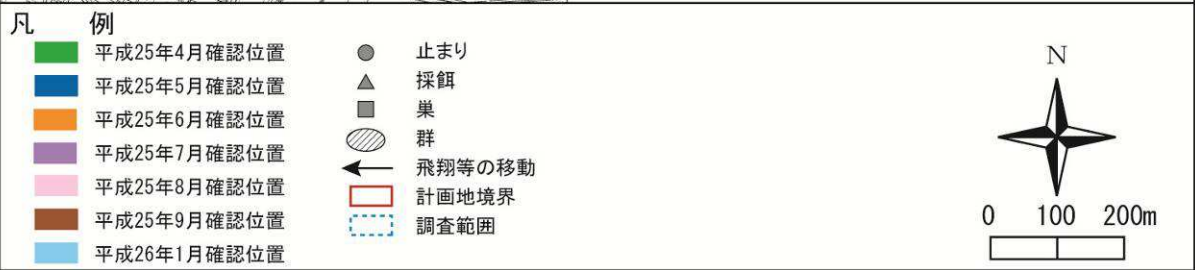
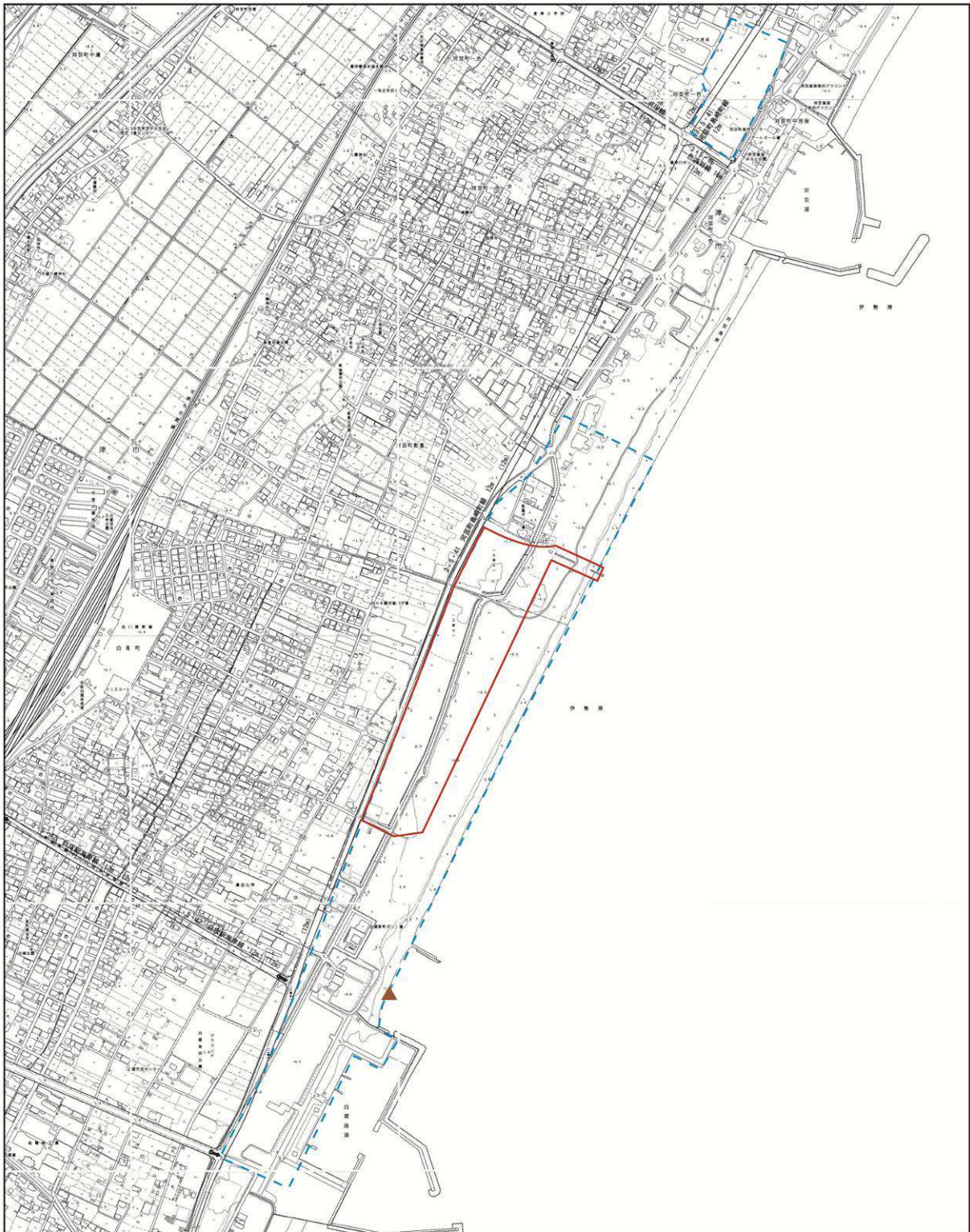


図 3.2-8 トウネンの確認位置

9) ハマシギ

ハマシギの生態情報等を表 3.2-12 に、確認位置を図 3.2-9 に示す。

ハマシギは、平成 26 年 1 月 10 日に海上を飛翔する 12 羽を確認した。

なお、繁殖行動は確認されなかった。

表 3.2-12 特筆すべき種の生態および確認状況（ハマシギ）

ハマシギ	シギ科	種の 保存法	-	環境省 RL	NT	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 越冬
生態	日本には旅鳥として 8～10 月頃と 4～5 月頃に現れ、渡来数も多い。また、北海道から南西諸島に至る各地の海岸や内陸の河川で少数が越冬する。砂泥地の薄くフィルム状に水につかるところを歩き回って、水生昆虫の幼虫、ミミズ、ゴカイ、ヨコエビなどの甲殻類を食べる。								
確認 状況	平成 26 年 1 月 10 日に海上を飛翔する 12 羽を確認した。								

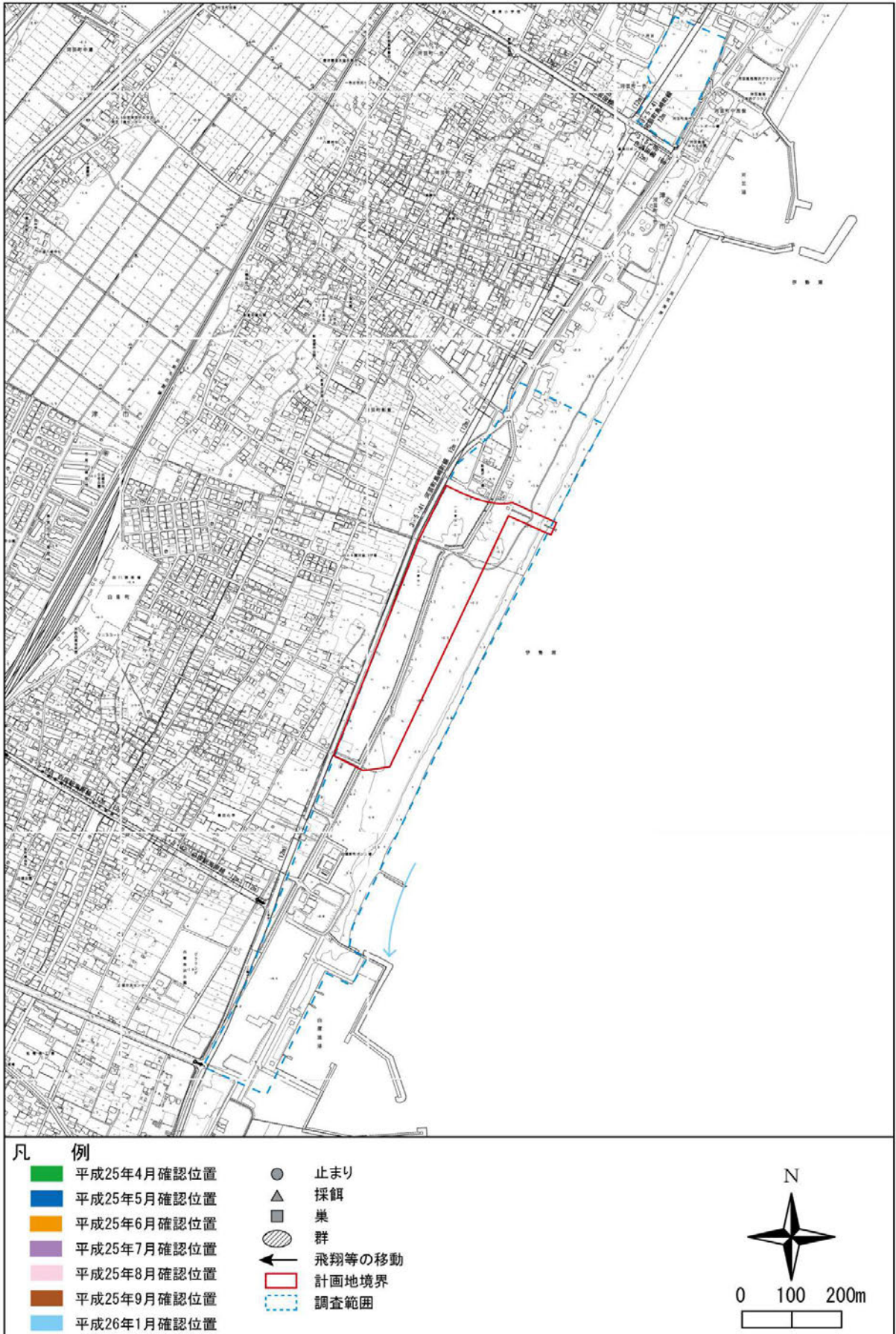


図 3.2-9 ハマシギの確認位置図

10) チュウシャクシギ

チュウシャクシギの生態情報等を表 3.2-13に、確認位置を図 3.2-10に示す。

チュウシャクシギは、平成 25 年 4 月 25 日に草地で休息する 2 羽、5 月 10 日に砂浜で採餌する 1 羽をそれぞれ確認した。

なお、繁殖行動は確認されなかった。

表 3.2-13 特筆すべき種の生態および確認状況（チュウシャクシギ）

チュウシャクシギ	シギ科	種の保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として 9～10 月頃と 4～5 月頃に現れる。海岸の干潟、砂浜の水たまり、マングローブ林のふち、河川の砂泥地、水田などでみられる。大きい体と下湾した長いくちばしを使って泥地を歩き、もっぱら泥の中に探りを入れ、こじるようにしてカニやカエルなどをほじり出す。カニを取り出すと、振り回して足をばらばらにして呑み込む。								
確認状況	平成 25 年 4 月 25 日に延べ 2 羽、5 月 10 日に 1 羽をそれぞれ確認した。								
									
平成 25 年 5 月 10 日撮影									

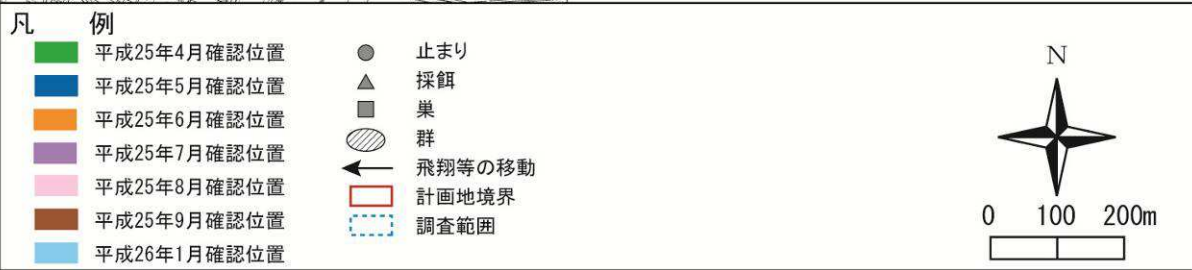
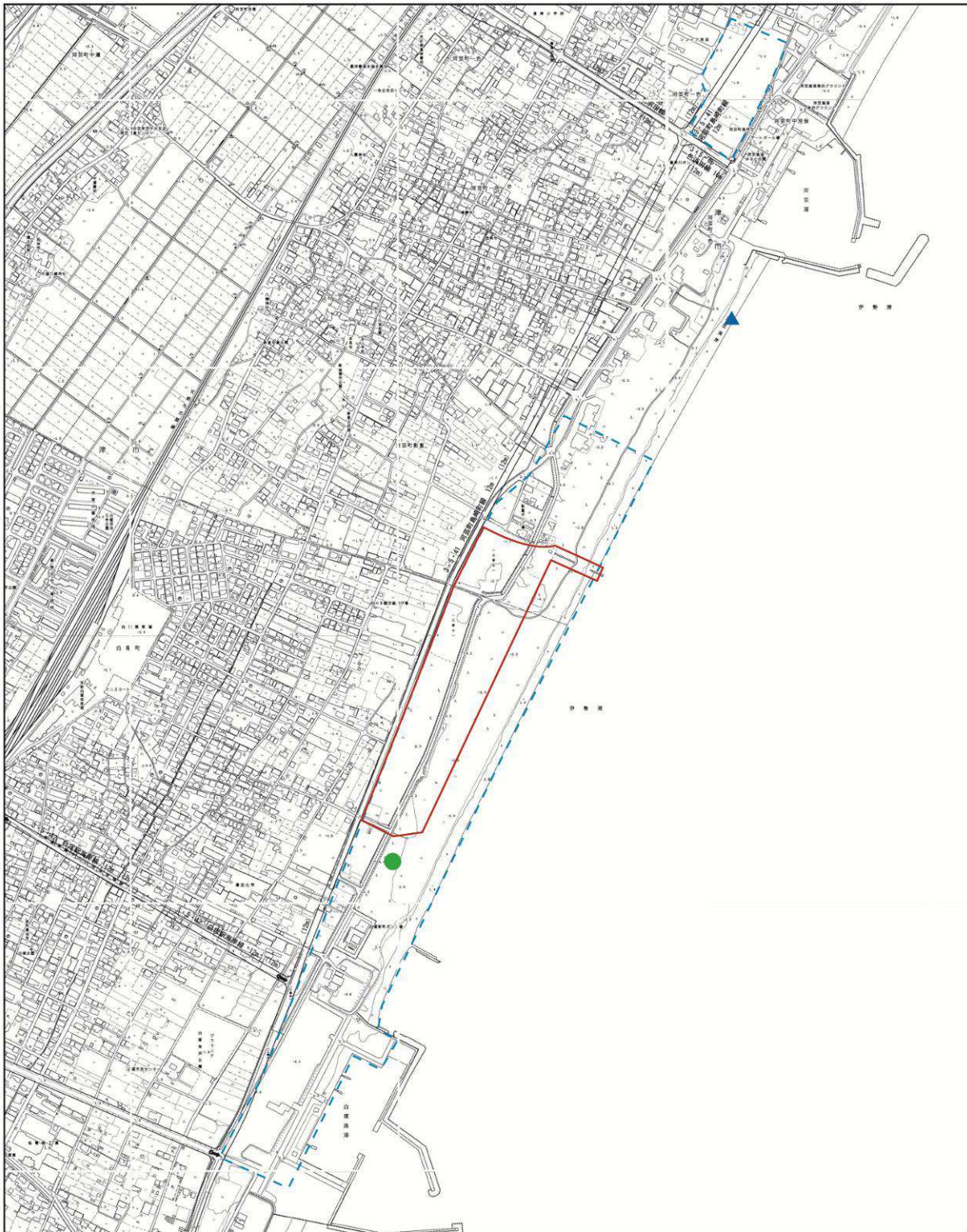


図 3.2-10 チュウシャクシギの確認位置図

11) アオアシシギ

アオアシシギの生態情報等を表 3.2-14に、確認位置を図 3.2-11に示す。
アオアシシギは、平成 25 年 5 月 10 日に砂浜で休息する 8 羽を確認した。
なお、繁殖行動は確認されなかった。

表 3.2-14 特筆すべき種の生態および確認状況（アオアシシギ）

アオアシシギ	シギ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として春と秋に各地に現れ、干潟・河口・水田・湖沼等に生息する。昆虫類・両生類・甲殻類・小魚などを捕食し、浅く水につかる泥地を歩き、くちばしでつかみ取ったり、探りを入れたりして採餌する。繁殖は4～7月で、樹木や石のそばに巣を作り、卵数は3～4個。								
確認 状況	平成 25 年 5 月 10 日に 8 羽を確認した。								
									
平成 25 年 5 月 10 日撮影									

なお、シギ・チドリ類に関しては、環境省が毎年モニタリング調査を実施しており、「環境省請負業務 モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査春期速報（環境省自然環境局生物多様性センター）」として公表されている。

本調査範囲の近傍では、約 5km 南の志登茂川河口部にモニタリング調査の調査地が設定されている。このモニタリング調査結果による平成 24 年春季と平成 25 年春季の比較では、平成 24 年が 12 種 565 個体（調査 1 日当たり 141.3 個体）、平成 25 年が 13 種 879 個体（調査 1 日当たり 175.8 個体）と平成 24 年に対して増加していることが確認された。

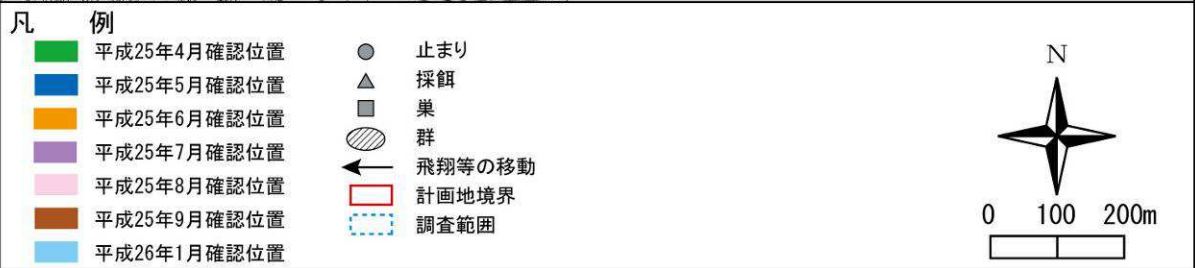
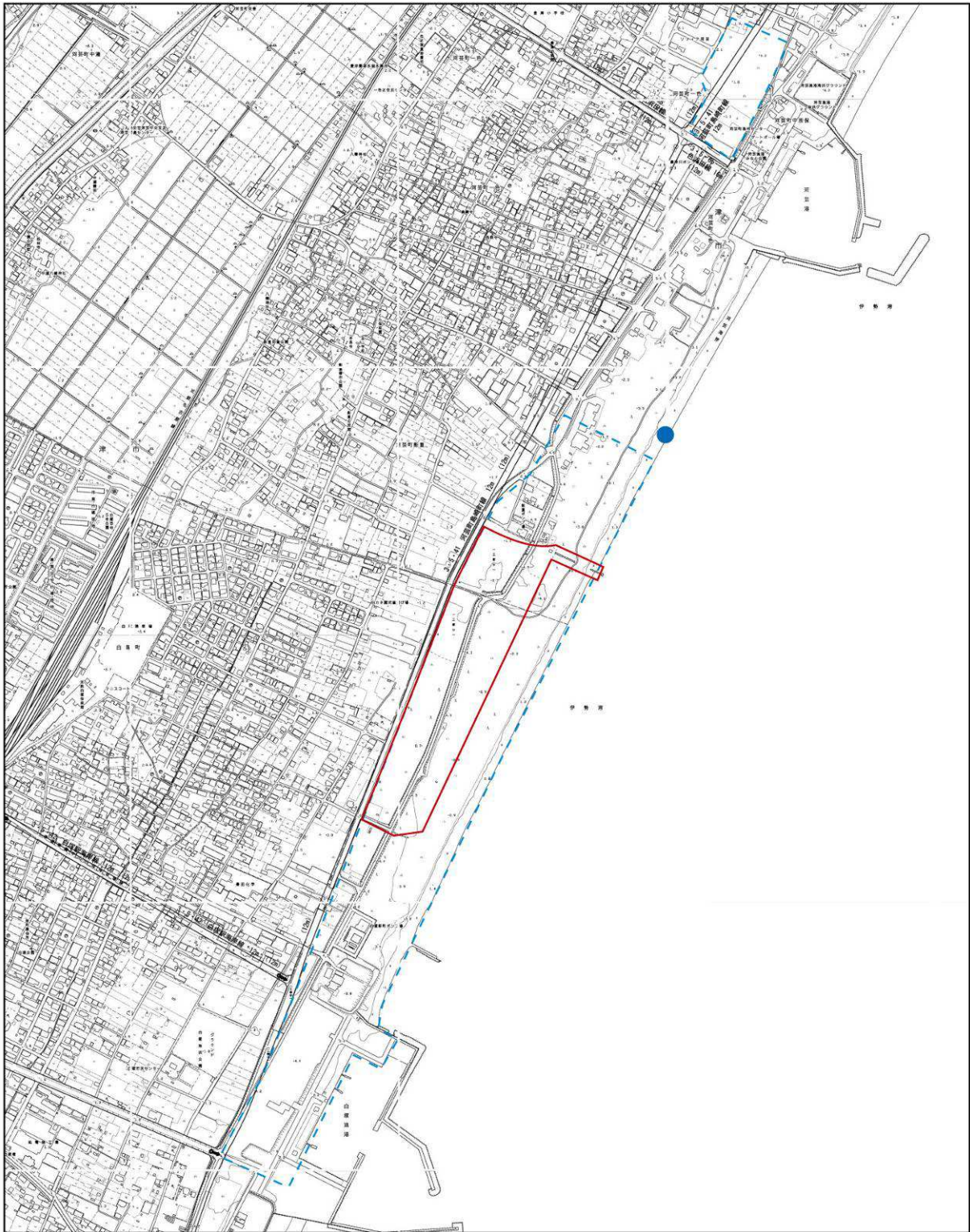


図 3.2-11 アオアシシギの確認位置図

12) オオヨシキリ



オオヨシキリの生態情報等を表 3.2-15に、確認位置を図 3.2-12に示す。

オオヨシキリは平成 25 年 6 月 25 日に 6 羽、7 月 25 日に 1 羽が確認された。

オオヨシキリの繁殖に関わる行動が以下のとおり確認された。

- ・平成 25 年 6 月 25 日には、計画地内のヨシ保全区域周辺で囀りや餌運びが、また、河芸漁港西側のヨシ原で複数の囀りを確認した。
- ・7 月 25 日には、河芸漁港西側のヨシ原で 1 個体の囀りを確認した。
- ・8 月 12 日には、河芸漁港西側のヨシ原においてオオヨシキリの営巣跡を 2 箇所確認した。しかし、計画地内のヨシ原において営巣跡は確認されなかった。

表 3.2-15 特筆すべき種の生態および確認状況（オオヨシキリ）

オオヨシキリ	ウグイス科	種の保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	NT	近畿 RDB	R3 繁殖
生態	日本には夏鳥として 4 月下旬ころ北海道北・東部を除く全国に渡来する。8～9 月には渡去し、東南アジアで越冬する。三重県では平野部を中心に各地に生息する。水辺のヨシ原に生息し、海岸や河口等の低地の湿原や、山地の湖岸や川岸の湿地でふつうに繁殖する。茎から茎へと移動しながら細くとがったくちばしで昆虫を捕らえる。繁殖期は 5～8 月、年に 1～2 回繁殖する。一夫多妻で繁殖し、ヨシの茎の間にイネ科植物の茎、枯葉等を使用してコップ状の巣を造る。雄は渡来するとヨシ原になわばりを構え、ヨシやヤナギの上部に止まってギョギョシ、ギョギョシと聞こえる特徴のある声で夜も昼もさえずり続ける。								
確認状況	平成 25 年 5 月 10 日に 1 羽、6 月 25 日に 6 羽、7 月 25 日に 1 羽をそれぞれ確認した。また、8 月 12 日に河芸漁港西側のヨシ原においてオオヨシキリの営巣跡を 2 箇所確認した。								
									
オオヨシキリ 平成 25 年 6 月 25 日撮影		オオヨシキリ 営巣跡 平成 25 年 8 月 12 日撮影							

営巣跡が確認された河芸漁港西側のヨシ原では、6月、7月に囀りが確認され、8月に2箇所の営巣跡が確認された。このヨシ原は、水田跡地に生育したと考えられ、周囲が埋め立てられ住宅地等になっており、一部に水田が残っている。

確認した営巣跡において、ヨシの密度や水深等の営巣環境を調査した。営巣環境調査結果を表3.2-16に示す。

営巣環境は、耕作跡地に成立したヨシ群落であり、周辺には水田が一部残り、また、水田を埋立後に建てられたと推定される住宅地が隣接する。

ヨシの高さが2.0m及び2.4m、ヨシの密度は168本/m²及び185本/m²で、生きたヨシが約70%及び80%であった。水深は0.0mで、土壌に水分が多く含まれているものの地表に水は溜ってはいなかった。

群落の面積は約3,900m²であり、平成25年度のつがいの密度は1つがい/1,950m²であった。

既往検討(「中勢沿岸流域下水道(志登茂川処理区)志登茂川浄化センター環境保全エリア設置に関する検討報告書(平成20年11月三重県)」)において、オオヨシキリ1つがいが繁殖に必要とする面積が最少で1,000m²、一般的には2,600m²とされていることを踏まえると、営巣が確認されたヨシ原は、面積的に条件を満たしている。

表3.2-16 営巣環境調査結果

項目		No. 1	No. 2
ヨシの高さ(m)		2.0	2.4
ヨシの密度 (本/m ²)	生きたヨシ	150	120
	枯れたヨシ	35	48
	合計	185	168
水深(m)		0.0	0.0

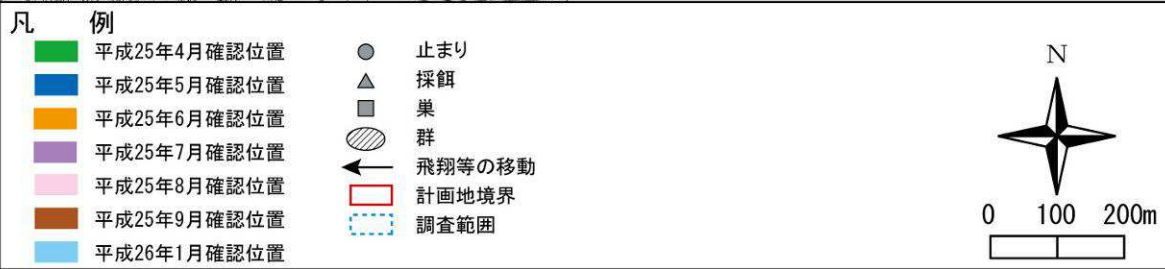
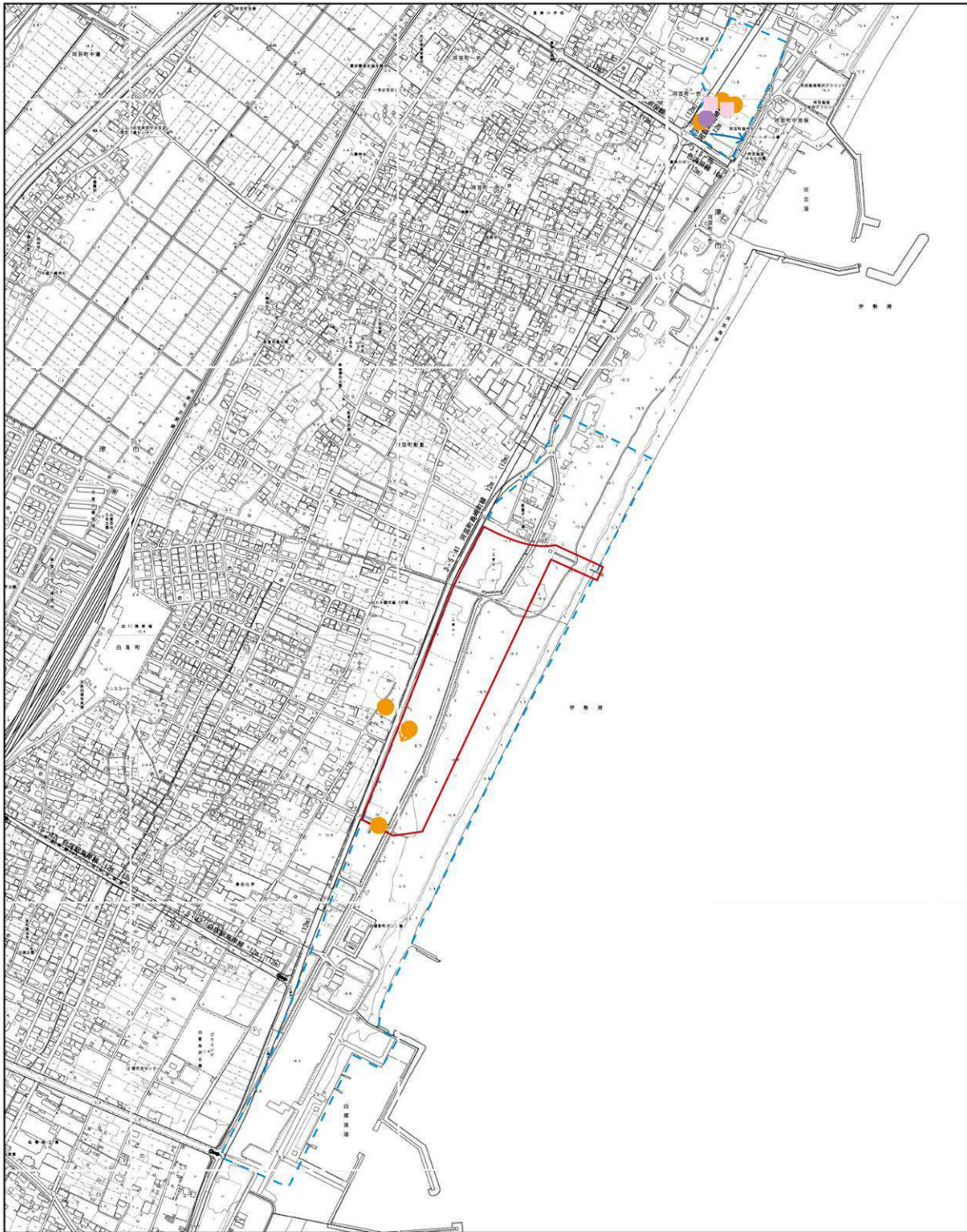


図 3.2-12 オオヨシキリの確認位置